学校教育指導資料

わかる授業づくりに向けて

学習指導のポイント１０

子どもに「確かな学力」を身に付けさせるため，授業づくりの基礎・基本をまとめました。各学校における日々の実践や校内研修等で有効に活用いただき，教師一人一人の学習指導がより充実したものになるよう願っています。

授業づくりの基礎・基本

ポイント1　授業に生かす子ども理解
ポイント2　望ましい学習態度の育成を目指す学習常規
ポイント3　目標の実現を目指す教材研究
ポイント4　指導と評価の一体化を図る学習指導案
ポイント5　よさや可能性を伸ばす学習指導の評価
ポイント6　学習効果を高める学習形態
ポイント7　思考を促す発問・指示
ポイント8　授業の内容がわかる板書
ポイント9　学ぶ意欲を高め，考えをより確かにするノート指導
ポイント10　学習効果を高めるプリント教材等

函館市教育委員会

ポイント1　授業に生かす子ども理解

1　生活経験や特性に基づいて，子どもの実態を把握し，授業づくりに生かしていますか？
2　他の教師や保護者との連携により，多面的に理解しようとしていますか？
3　子どもをかけがえのない存在として尊重し，共感的な理解に努めていますか？
4　子どもの様子について「記録」と「振り返り」を行っていますか？

子ども理解は教育の出発点であり，毎日の学習活動も子どもの実態の上に成り立っています。子どもがもっている能力や特性，子どもを取り巻く環境（家庭・地域社会・学級集団）を正しく理解し，指導に生かすことが大切です。

視点1

○各種調査の活用（各調査の特性を踏まえて）

①基礎的な資料
・生育歴　・家庭環境　・健康状態　・人間関係　・学習状況
・悩み　・興味　・意欲　・好き嫌い　など

②子どもの能力や適性
・知能検査　・学力テスト　・学習適応検査
・適性検査(職業適性検査，職業興味テスト)　など

③子どもの性格
・ＹＧ性格検査　・内田クレペリンテスト
・エゴグラム　など

④学級集団の人間関係や親子関係
・Ｑ－Ｕ　・親子関係診断テスト　など

視点2

○日常観察による子ども理解

①教育相談による子ども理解
・チャンス相談　・個人面談　・三者懇談

②あらゆる教育活動における子ども理解
・休み時間　・放課後　・クラブや部活動　・学校行事
・児童会，生徒会活動

③複数の目による子ども理解
・学級担任　・教科担任　・養護教諭　・部活動顧問
・スクールカウンセラー　・友だち

④組織的な子ども理解
・学年やブロック会議
・生徒指導研修会や特別支援教育校内委員会

生徒指導の機能を生かした学級経営

＜魅力ある学級の条件＞

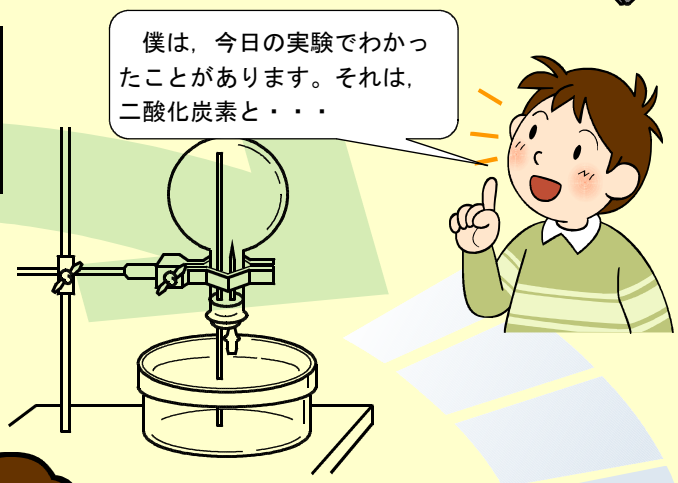
・一人一人の活躍する場がある	～	自己存在感
・自分の話を聴いてもらえる人がいる	～	受容感
・自分は人の役に立っているという自覚がもてる	～	自己有用感
・自分や学級が高まっていると感じる	～	自己拡大感
・そこにいることが楽しく感じる	～	心の居場所

実践例　授業に生かす子ども理解の実際

子どもの興味・関心・意欲の実態把握

子ども理解を踏まえた授業構築

興味をもっている教科の学習で，活躍する場をつくり，自信をもたせよう。



僕は，今日の実験でわかったことがあります。それは，二酸化炭素と・・・

③授業における具体的な手立て

そういえば，理科の実験には興味をもって取り組んで，グループの中でもリーダーを助けて活動していた。お父さんが自動車工場で働いているから，機械に興味があるかもしれない。

①実態の把握

太郎君は，毎日元気に学校に来ているけど，Q-Uで見ると，「学習への意欲は高いが，自分に自信がもてない。」という結果が出ていたなあ。授業で活躍させて，自信を付けてさせてあげたいな。

②支援の手立て

発表するのは，まだちょっと抵抗感があるのかな？発表する項目をいくつかに分けて，全員に言ってもらおう。

子どもの学習の状況を踏まえた教師の支援

子どもの様子	教師の働きかけ
○既習事項がどの程度身に付いているか。	●既習事項の定着度を把握するため，レディネステストを実施する。
○学習内容に対して，興味・関心をもっているか。	●子どもに興味・関心をもたせるため，単元導入時に教材等を工夫する。
○学習課題に対して，集中して取り組んでいるか。	●発問や指示を具体的にするとともに，適切な声の大きさを意識する。
○学習課題に対して，解決の見通しをもっているか。	●事前に「予想されるつまずき」を想定し，机間指導を充実させたり，ヒントカードを用意するなど，支援に努める。
○自信がなく，発言することを躊躇してはいないか。	●机間指導で学習状況を把握し，意図的・計画的に指名する。
○学習内容を理解しているか。	●理解していない内容をしっかり把握し，個別に指導する。また，少し易しい課題を与え，基礎的な内容の定着を図る。
○宿題や家庭学習に毎日に取り組んでいるか。	●復習問題だけでなく，理解の遅い子どもが取り組むことができる課題を与えることも大切。また，家庭との連携を密にする。

ポイント2　望ましい学習態度の育成を目指す学習常規

1　学習常規を教室に掲示し，学校として共通した実践が行われていますか？
2　授業開始時に学習の準備ができていますか？
3　誰もが自分の意見や考えを発言できる授業になっていますか？
4　教師の話や友だちの発言を，最後まで聞くことができていますか？
5　「学年（１～９）×１０分」の家庭学習の習慣が身に付いていますか？

「さあ，授業を始めよう！」というときに，不必要な指示や点検活動で貴重な時間を無駄にしていませんか。学習準備・話の聞き方などの「学習態度」や家庭学習などの「学習習慣」の形成，学習に集中できるなどの「学習環境」づくりが，学力向上には欠かすことのできない要素です。

子ども一人一人の確かな学力をはぐくむために，発達段階に応じ，「望ましい学習態度」や「望ましい学習習慣」を身に付けさせ，「望ましい学習環境」を整備することが重要です。

視点１

○望ましい学習態度
①席に着いている。（時間を守る）
②学習用具が準備できている。（休み時間中に）
③指示に反応する。（何を行うか理解している）
④進んで発言し，話を最後まで聞く。（主体的な学習）

視点２

○望ましい学習習慣
①前日のうちに学習用具の準備をする。（忘れ物の防止）
②「学年×１０分」の家庭学習を行う。（予習・復習）
③学習計画を立て，実行する。（よりよい学習習慣の形成）
④学習したことを生かそうとする。（活用する態度の育成）

視点３

○望ましい学習環境
①学習に集中できる静かな教室（私語厳禁）
②誰もが安心して発言できる雰囲気（支持的風土の醸成）
③正しい言語の使用（正しい文字・言葉遣い）
④計画的な掲示や展示（学習意欲の喚起）

「確かな学力」の定着をめざす取組として

＜学習常規を設定する際の配慮事項＞
◇発達段階に応じて，身に付けるべき内容を設定する。
◇定期的に子どもの実態を把握する。
◇中学校区内の学校間で情報を交流する。
◇子どもの状況をとらえ，見直しを図る。

＜学習常規の項目例＞
◆学習の準備について
◆あいさつや返事について
◆話し方・聞き方・ノートの使い方について
◆学習中の態度について
◆家庭学習の時間について

実践例１　望ましい話し方や聞き方の定着を図る取組

話の聞き方

「耳と目を使って，話を聞く」ことを繰り返し指導する。

先生の話や友だちの発言を，最後までしっかりと聞くことができる
- 話している人の方を向いて聞く。
- 話が終わるまで黙って聞く。
- 自分の意見や考えと比べながら聞く。
- 大切だと思ったことを，ノートなどにメモをとりながら聞く。

小学校高学年の児童や中学生には，話の要点をノートにメモをとる習慣を付ける。

自分の考えを書き残すようにさせる。

発言の仕方

指名された時，「はい」の返事を習慣化させる。

聞き取りやすい声の大きさ・速さで，発言することができる
- 挙手し，指名されてから発言する。
- みんなの方を向いて，聞こえる声ではっきりと発言する。
- 先に自分の考えを示し，そのあと理由を付け加える。
- 図や絵，具体物を使いながら，わかりやすく説明する。

場や状況に応じた声の大きさを意識させる。

伝えたいことが理解されるよう，聞いている人の反応を見ながら，身振りを交えたり，事例を示したりするなど，工夫を凝らす。

実践例２　子どもが必要性を実感できるルールづくり

活動の例

①アンケートを実施し，自分たちの授業中の様子を振り返る。
②先生に取材して，自分たちの授業中の様子を把握する。
③学級会を開き，アンケートや取材の結果をもとに，課題を明確にし，改善の方策を話し合う。

○きまりがなくても，きちんとできるようになったことは？
　・忘れ物をしない　・２分前着席
○変えた方がよいルールは？
　・発表の仕方　・ノートのとり方
○新たに必要なルールは？

アンケート

授業中の様子を振り返りましょう

○休み時間のうちに学習用具を用意している。
　いつも　ときどき　していない

○チャイムの２分前には，席に着いている。
　いつも　ときどき　着いていない

○授業中，私語をしない。
　いつも　ときどき　している

家庭学習を定着させるため，「家庭学習の手引き」を作成し，子どもへ配付するだけではなく，ＰＴＡ研修会や学級・学年懇談会等において，保護者に詳しく説明し，協力を呼びかけている学校が増えてきています。

ポイント3　目標の実現を目指す教材研究

1　目標の実現に必要な内容が教材に含まれていますか？
2　教材が子どもの実態に合っていますか？
3　教材を通して，効果的に学ばせる指導方法を工夫していますか？

基礎・基本を定着させるためには，教材に教科等の目標の実現に必要な内容が含まれているか，教材が子どもの実態に合っているかなど，視点を明確にした教材研究や，目標をより効果的に実現する教材開発を進めることが大切です。

学習活動を活性化させ，子どもに確かな学力を身に付けさせるためには，子どもの実態や教材，指導方法等について，確かな見通しをもって授業設計するなどの教材研究は欠かせないものです。

視点1

○目標の実現を目指す教材の工夫
①目標に照らして教材の精選を図る。
②指導内容の系統性を踏まえ，素材の発展性に配慮し，配列を工夫する。
（修正，順序の入れ替え，軽重など）
③教科書だけでなく，どのような資料や教具が必要か検討する。
（副読本，資料集，視聴覚教材，模型，自作教材，ﾜｰｸｼｰﾄなど）

視点2

○子どもの実態に合った教材
①指導にかかわる子どもの実態（観点別学習状況）を把握する。
②子どもに身に付いている学び方や学習習慣を把握する。
③発達段階，興味・関心，生活経験，地域の実態を把握する。

視点3

○教材を効果的に学ばせる指導方法の工夫
①計画した時間内に学習できるようにする。
②教材提示の方法，順番，効果的な活用を工夫する。
③場面に応じた学習形態を工夫する。
④評価の観点や方法を明確にし，指導に生かす。

視点4

○よい教材の条件
①多様な見方や考え方，感じ方ができるもの。
②意外性をもつもの，未知のもの，矛盾を含んだもの。
③課題を見付けやすいもの。
④課題追究が持続するもの。

○教材の提示
①体験的活動を通して，子どもが疑問点や問題点に気付くようにする。
②演示や動作，実物や具体物，図書などの活用を図る。

実践例　目標の実現を目指す教材研究の進め方

教材研究の進め方

子どもの実態把握

○児童の学力状況を把握する。
　・観点別学習状況
　・標準学力検査（ＣＲＴ）
　・レディネステスト
　・資料の活用能力
　・学習習慣の定着度
○発達段階や生活経験，興味・関心や地域の実態を把握する。

↓

学習目標の設定

○１つの単元を通して，身に付けさせたい力を明確にする。
○学習指導要領を拠り所に定めた年間指導計画に基づいて策定する。
○具体的で焦点化された評価規準を位置付ける。

↓

教材の検討

○目標に照らして教材の精選化を図る。
　・系統性を踏まえた配列の工夫
　・資料，教具，ワークシート等の検討

↓

指導方法の工夫

○単位時間内で指導が可能かを吟味する。
○効果的な教材提示の仕方を工夫する。
○場面に応じて，学習形態を工夫する。
○評価規準に基づき，評価場面や方法を明確にする。

興味・関心を喚起する教材の例

小学校第1学年算数科　題材「100までの数」

【卵パックを使って，１０のかたまりを意識させる】

・様々な数の大きさを数える経験をさせ，その中で１０のまとまりをつくるよさに気付かせる。

実態把握×目標分析×指導法
＝基礎・基本を身に付けさせる授業

１年生だから，具体的に手を動かしながら考えられるものがいいわね。子どもたちの生活経験も考えに入れるといい。

身近なもので１０のまとまりを意識する…

そうだわ！　卵パックなら
■１０のまとまりを意識できる
■子どもたちも見たことがある
■おはじきを入れながら教えやすい
使ってみようかしら。

ポイント４　指導と評価の一体化を図る学習指導案

1　授業を通して，どのような学習内容を，どのような学び方で身に付けていくかを明確にしていますか？
2　実際の授業を想定して，発問・指示・板書などが計画されていますか？
3　学習状況の評価場面・方法を設定し，学習指導案に明記していますか？
4　「努力を要する状況」の子どもへの支援・方策を準備していますか？
5　授業改善に向け，授業の振り返りを行っていますか？

本時の学習指導案は，１時間の授業の設計図で，教材の提示，発問と指示，子どもへの支援，評価の仕方などの学習指導の計画です。

子どもの確かな学力の向上を目指し，下記のポイントを参考に，子どもの実態に即した学習指導案を作成することが大切です。

各校の教育課程を具現化したものである学習指導案をもとに授業を計画・実践し，授業後に反省・評価を行うことにより，課題が明らかになり，授業の改善・指導技術の向上につながります。

視点１

○子どもの実態を踏まえた目標の設定
①到達目標が具体的に，評価可能な表現で設定されている。
②観点別学習状況の評価を考慮して整理する。

視点２

○目標の実現を目指した指導
①指導の項目・手段・過程，学習形態が明らかになっている。
②学習課題を解決するために，効果的な発問や指示を工夫している。
③授業の流れ・思考の過程が見て分かる板書を計画している。

視点３

○目標の実現状況の把握と授業改善を目指した評価
①目標の実現状況を把握するため，授業過程を通して評価している。
②効果的に評価するため，具体的な評価場面・方法を明記している。
③「努力を要する」子どもに対する具体的な支援策が，指導体制も含め，計画されている。

本時の授業設計の留意点

1　子どもが，学びたいと触発されるような教材開発と提示の仕方を工夫する。
2　すべての子どもが，本時の目標を理解して，主体的に取り組めるようにする。
3　体験的な学習を通して，問題解決する学習過程を構成する。
4　理解や進度に違いのある多様な子どもの学力状況を踏まえ，学習形態や指導体制を工夫する。

実践例　指導と評価の一体化を図る学習指導案（本時案）

※小学校第３学年算数科　題材「小数のたし算」

◎ 本時の目標

＜算数への関心・意欲・態度＞　・小数の加減計算に関心をもち，計算の仕方を考えようとする。
＜数学的な考え方＞　・小数を単位数の何こ分ととらえて，既習の整数の計算に帰着して，小数の加減計算のしかたを考えることができる。

観点については，単元全体を通してバランスよく設定する。

評価を考慮し，具体的に目標を設定する。

◎ 本時の展開

	学 習 活 動	教師のかかわり	評価（観点・方法）など
導入	○問題を読み，どんな式になるか考える。 ジュースの入ったびんが２本あります。大きいびんには0.5㍑，小さいびんには0.3㍑入っています。ジュースは合わせて何㍑ありますか。 ○学習課題を確認する。 小 数 の た し 算 の 仕 方 を 考 え よ う	○問題を視写・音読させて題意をつかませる。	
展開	○小数のたし算の仕方を考える。 ○整数では同じ位どうしで計算したので，小数でも同じように計算する。	○既習の計算を振り返らせることにより，見通しがもてるようにさせる。	○小数の加法計算の仕方を考え，言葉や図などを用いて予想している。（関心・意欲・態度） ＜机間指導＞
開	「0.5＋0.3 の計算をしよう」 ○数直線で考える。 ○0.1の何こ分かで考える。 0.1が５こと　0.1が３こをあわせると　0.1が８こだから　0.8になる。	○ノートに自分なりの方法を記述するように指示する。 「努力を要する状況」の子どもに対する具体的な支援を記述する。	○小数を単位数（0.1）の何こ分ととらえて，既習の整数の計算に帰着して考え，ノートに図や式，言葉で自分の考えを書いている。 （考え方） ☆具体物や図を用いて，0.1をもとにして，そのいくつ分かで考えるよう促す。
整理	○小数のたし算の仕方についてまとめる。 小数のたし算は，0.1をもとにして整数と同じように計算することができる。 ○自己評価カードに記入する。	○自己評価カードの記入を観察する。	

具体的な学習課題を提示する。

評価規準・観点・方法などを記述する。

自己評価カードの中に，教材・発問・指示・板書・学習形態等に関する項目も用意する。

◎ 評　価

＜算数への関心・意欲・態度＞　・小数の加減計算に関心をもち，計算の仕方を考えようとしていたか。
＜数学的な考え方＞　・小数を単位数の何こ分ととらえて，既習の整数の計算に帰着して小数の加減計算を考えることができたか。

その他の資料

○板書計画
○座席表（個人情報の流出などの観点から，イニシャルで表す等の配慮が必要）
○ワークシートや学習プリント　など

ポイント5　よさや可能性を伸ばす学習指導の評価

1　子どもの変容を見取っていますか？
2　子どもにその子のよさを伝えていますか？
3　子ども一人一人の目標の実現状況を把握していますか？
4　評価を基に，指導改善を図っていますか？

子どものよさや可能性を伸ばすためには，評価の意義を踏まえるとともに，評価規準に基づき，適切な場面・方法で，子どもの学習状況を総合的，客観的に評価することが重要です。また，共感的な子ども理解や評価の生かし方などについて，十分研修し，評価を学習指導の改善に生かすことが大切です。

視点１

○適切に評価するための子ども理解の充実

①様々な思考や判断，表現などをその子どものよさの表れととらえる。
②子どもと教師が信頼し合う温かな雰囲気をつくる。
③学習活動に対する戸惑い，悩みなどを，共感的に理解する。
④子どもの全体的な特徴を多面的にとらえる。

視点２

○指導の改善に生かす評価の在り方

種　類	時　期	ね　ら　い
診断的評価	学年や単元の始め	子どもの興味・関心や生活経験，既習事項の理解などの状況をとらえ，指導計画に生かす。
形成的評価	単元途中や１単位時間の途中	子ども一人一人の学習状況を的確に把握し，個に応じた指導の工夫に生かす。
総括的評価	学年末，学期末，単元末	学習の成果等を総合的，客観的にとらえ，指導の改善に生かす。

視点３

○評価する際の留意事項

①評価の客観性を高めるため，評価の在り方や方法等に対する教員の共通理解と力量の向上を図る。
②「努力を要する状況」の子どもに対して，基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るための手立てを講じる。
③家庭における学習の支援につながるよう，保護者や子どもに対して，評価についての情報を提供する。
④子ども一人一人に対する評価の結果を学校の教育課程の自己点検・自己評価にも生かす。

授業改善に生かす授業評価

「授業がわかりやすかったか。」「学習内容がわかったか。」など，子どもによる授業評価を実施し，指導の改善に生かすことも効果的です。単元ごと，学期ごとなどで実施することで，子どもの受け止め方や感じ方を把握することができます。

また，平成２１年度のアプローチに掲載した「授業づくりのチェック表」に基づき，相互に授業を参観したり，ベテランの先生の授業から学んだりすることも大切です。

共感的理解に基づく評価活動

※小学校第６学年算数科　単元「比例の表とグラフ」

①目　標　・文や式から２つの量が比例関係にあるか判定することができる。（表現・処理）

②日常の子どもの姿

数の感覚は乏しいけど，直感力は鋭い。

明るく，運動が好きだけど，物事にあきやすい。

問題文を読んで，比例であるかどうかを理解するのは難しそうだ。

表を利用し解決させてみよう。

展開

・自力解決する。

文章や式だけでは，比例かどうかはわからないなあ。

表を使ったら，比例かどうかわかってきたぞ。

あきらめないでやると，ぼくにもできるぞ。

期待する変容

・考えを交流する。

評価規準

・比例しているかどうかについて，理由を明らかにして判断している。

具体的な支援

前時の学習で表を使ってできたね。表を使って考えさせてみよう。

変容の伝達

難しいと思った問題でも，あきらめず取り組んだね。
比例かどうか迷ったときには，これからも表を使うとできるね。

単元の指導計画と評価活動

※中学校第２学年理科　単元「電流の働き」

単元の目標 → 単元の評価規準 →

月 時	指導内容	評価規準との関連				育てたい資質能力	学習活動における具体の評価規準など	評価方法
		関	考	技	知			
8 （3）	■豆電球に流れる電流 ・電流計の扱い方 ・いろいろな回路に流れる電流の測定	○		○		・実験器具の基礎操作	○電流計を正しく扱い，回路に流れる電流を測定できる。 ○電流に関心をもち，日常生活と関連付けて問題を発見しようとする。	・パフォーマンステスト ・観察 ・発言 ・実験レポート

ポイント6　学習効果を高める学習形態

1　活動内容によって学習形態を工夫していますか？
2　意図的・計画的に学習効果を高める学習形態を取り入れていますか？

学習効果を高めるには，子どもの能力・適性，興味・関心等の実態に応じたり，問題解決的な学習の各段階において，一斉学習やグループ学習，ペア学習，個別学習を適切に取り入れるなど，それぞれの学習活動に合った学習形態を取り入れていくことが大切です。

一斉学習

○話合い活動など，集団で思考する場面で活用できる学習形態
①学習の導入部分で共通の課題を把握したり，学習の終末部分で伝え合い，学び合う場面でも効果的に活用できる。
②多様な考えの交流により，思考の質が高まる。
③ティーム・ティーチングなど個に応じた指導を充実させ，一人一人の学習状況に応じることも大切である。
●教師主導になりがちで，子ども主体の学習になりにくい。

グループ学習

○子どもをいくつかの小集団に分けて指導する学習形態
①子どもの興味・関心や習熟の程度，理解の状況の違い等に対応が可能である。
②話しやすい雰囲気をつくり出し，意見交流が活発になる。
③目標の実現を目指し，様々な形態の集団を編成することが大切である。
●グループの一部の子どもだけで，学習が進んでしまう心配がある。

ペア学習

○考えを交流したり，互いの学習状況を確かめたりできる学習形態
①隣の席同士など，気軽に意見を言い合いながら，考えを広げたり，深めたりする。
②新たに他の子とペアにする場面を取り入れると，学習の広がりや深まりがさらに期待できる。
●内容が固定的になる場合がある。

個別学習

○個別の課題や個人のペースで考えたり，活動したりすることを重視した学習形態
①子ども一人一人の能力や適性，興味・関心等，学習の理解度の差，学習スキルやスタイルなど，様々な違いに応じることができる。
②適度に対話や交流場面を設けることも大切である。
●教師一人で支援しきれない場合がある。

※①，②～メリット　　●～デメリット

実践例　学習効果を高める学習形態の実際

課題把握の場面

一斉学習

共通の課題を把握させる場合は，「一斉学習」を用いる。なお，作業を通して課題を見出す場合は，その作業内容に応じて「グループ学習」「ペア学習」「個別学習」を取り入れると効果が上がる。

課題解決のための作業や実験を複数で行うことで学習効果が上がったり，子ども同士の話合い活動が必要であったりする場合は，その内容に応じて「グループ学習」「ペア学習」を取り入れる。

自力解決の場面

個別学習

基本的には「個別学習」のスタイルで，子ども一人一人が自分なりの方法で課題を解決する。
また，ティーム・ティーチングを活用するなどして，一人一人を支援する。

グループ学習

全体交流の前に，「グループ」や「ペア」による小交流を位置付けることもある。

交流・まとめの場面

一斉学習

「一斉学習」のスタイルで，子どもが自分の考えを伝えたり，友だちの考えを聞いたりする。教師は，発表する子だけでなく，聞く側の子への支援も必要になる。

子どもの興味・関心や理解度・習熟度・学習速度などの違いに対応するよう，「グループ」に分けてのコース別学習を取り入れ，学習効果を上げている実践が増えてきている。

ペア学習

適用・習熟の場面

個別学習

学んだことを「個別」に適用したり，練習したりする。その際，ティーム・ティーチングを活用するなどして，子ども一人一人に学習内容の確実な定着を図る。

ここで示したのは一般的な問題解決型の学習過程です。教科や学習内容によっては，さらに効果的な学習形態が考えられます。それぞれの学習形態のメリットを踏まえながら，有効に活用してください。

学習形態は，指導内容に応じて，柔軟に考えていくことが大切です。１単位時間の中でも，複数の学習形態を工夫していくことも必要になります。

ポイント7　思考を促す発問・指示

1　思考を広げたり，深めたりするための発問を工夫していますか？
2　ねらいとする学習活動や表現を促す適切な指示ができていますか？

子ども一人一人が意欲的に学習するよう，学習内容に対する興味・関心を喚起し，学習の見通しをもたせ，多様な考えを引き出したり，思考を促すことができる発問や指示を計画することが大切です。

視点１

○ねらいに即した発問（例）

①既習事項を確認する発問
②学習課題に導く（把握）発問

既習内容を確認し，学習内容の定着度を把握できる。

③思考を広げたり，深めたりする発問
④判断を促す発問
⑤比較したり異同を明確にする発問
⑥自分の考えやイメージを出させる発問
⑦視点を転換させたり，ヒントを与える発問

多様な考えを促し，学習の広がりを引き出す。

⑧自分を振り返らせる発問
⑨次の学習への意欲化を図る発問

学習内容を想起させ，学習内容の定着を促す。

視点２

○学習過程の各段階における発問の工夫

	学　習　活　動	発　問　の　例
導入	○前時の学習内容を確認する。 ○興味・関心を喚起する。 ○学習課題を明確にする。 ○既習事項と比較する。	○不思議ですね。どうしてなのか調べてみましょう。 ○今日の課題をつくりましょう。 ○どんな点が問題でしたか。 ○これまでの学習とどこがちがいますか。
展開	○解決への見通しをもつ。 ○関連や関係に気付く。 ○考えを明確にする。 ○分析的，総合的に考える。	○どんな順序（方法）で考えたらよいでしょう。 ○△△の方法も考えられないでしょうか。 ○Ａさんはこういうことを言いたいのですね。 ○何からそのことがわかりかしたか。
まとめ	○学習したことをとらえる。 ○発展的にとらえる。 ○次の学習への意欲付けをする。	○今日学習したことをまとめてみましょう。 ○このことは，別の場合にも言えますか。 ○次の学習では，△△を調べてみましょう。

※　上記の発問例は，１単位時間にすべてを取り入れるのではなく，重点化や焦点化を図る必要があります。子どもが，その時間の中で，最も力を発揮できる場面を想定して，１～２程度の中心となる発問を計画することが大切です。

視点３

○活動の目的や意義を明らかにする適切な指示

①要点を押さえ，何のために，何を，どのようにするか具体的に指示する。
　よくない…「まわりの人と話し合ってください。」
　よ　　い…「４人でグループを作り，一人ずつ考えを発表し合ってください。その際，友だちの考えをメモをとるようにしましょう。」
②活動時間を明確にし，活動の見通しがもてるよう指示する。

学習過程における効果的な発問

※小学校第１学年算数科　単元「たし算」題材「けいさんのしかたを考えよう」

段階	学習活動（内容）	教師のかかわり
導入	１　前時の確認 ２　問題文を読む みきさんは　どんぐりを９こ，たけしさんは　４こ　ひろいました。あわせて　なんこ　ひろいましたか。 ３　本時の学習課題の確認	○なに算で考えればいいですか。そう考えたのはなぜですか。 ・前時の学習内容を確認する。 ○式にあらわすと，どうなりますか。 ・学習課題を明確にする。 ○今までの計算とちがうね。 ・既習事項と比較する。
	９＋４のけいさんのしかたをかんがえよう	
展開	４　計算の仕方を考える。 ・数えたし　10，11，12，13 ・加数分解　9＋1＋3=13 ・被加数分解　3＋6＋4＝13	○自分の考えをノートに書いてください。 ・解決への見通しをもつ。 ○ブロックの10のかたまりを使うと，どうなるかな。 ○できた人は手を置いてください。 ・具体的な指示を出す。
まとめ	５　発表する。 ６　今日の学習を振り返る。 ・10のかたまりをうまく使うとよいことに気付く。	○いろいろなやり方が出ましたが，どのやり方でも答えがうまく出たね。 ・学習したことをとらえる。 ○どの方法がやりやすかったかな。 ○次の時間は，やりやすい方法で計算をしてみよう。 ・次の学習への意欲付けをする。

発問と合わせて，教材・教具を工夫することや，授業中は，予想外の応答へも，臨機応変に対応することが大切です。

よい発問・指示

○明解で簡潔な発問
○タイミングのよい発問
○能力差を考えた発問
○意欲をもたせる発問
○よく考えさせる発問
○相互につながりがある発問
○一問多答になる発問
●簡潔で具体的な指示
●時間の見通しをもたせる指示

よくない発問・指示

○あいまいな発問
○繰り返しが多い発問
○長すぎる発問
○多くのことを聞く発問
○言いまわしが難しい発問
○前後につながりのない発問
○一問一答の発問
○答えの分かり切った発問
●あいまいな指示
●時間の見通しがない指示

ポイント8　授業の内容がわかる板書

1　板書を見ただけで，本時の学習の要点がわかりますか？
2　授業の内容を思考の過程に沿って，構造的に整理していますか？
3　板書計画を作っていますか？

授業を行う際，「板書」は欠かすことができないものです。

では，なぜ「板書」をするのでしょうか。それは，学習内容を子どもたちの視覚に訴え，客観的にとらえられるように提示するためです。また，「板書」をすることによって，学習内容の確認し，理解を定着させることも期待できます。

子どもが，学習内容をより確実に理解できるようにするため，「板書」の有効活用と技術を再確認しましょう。

視点１

○学習内容の定着を目指すための板書計画

①板書のタイミング

・説明する場面と板書する場面をはっきり区別する。
・発言内容を板書する際には，発言を最後まで聞き，問い返しなどを行って，趣旨を整理して，キーワードやキーセンテンスを板書する。

②板書の分量

・１時間の授業の板書は，黒板１枚分が適量である。（ただし，計算や書き取りなどの場合は消して使用することもある）
・授業の最初に書かれたことが残っていると，１時間の授業を振り返ることができる。

③板書の種類

・思考の過程に沿ってまとめる。
・比較するため，左右，上下に並べる。
・子どもの考えを整理したり，分類したりする。
・構造図や関係図などを用いる。

視点２

○視覚に訴える板書の基本

①字の大きさ

・一番後ろの席の子どもにも，はっきり見える大きさであることが大切である。

②色チョークの使い方

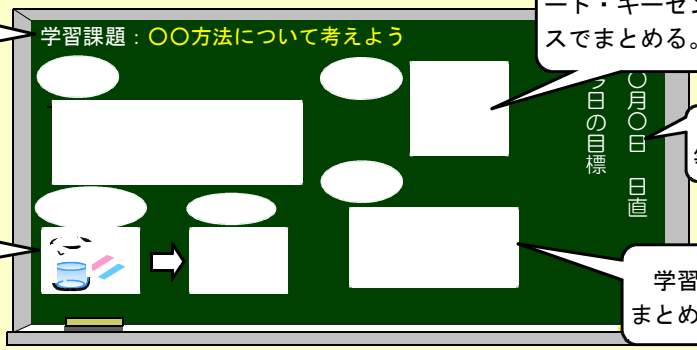
・色チョークを多用すると，何が重要なのかがわかりにくくなるので，「何色のチョークは○○」などと使用の意図を事前に伝えておくことが大切である。

③図や写真・イラストの効果的な使用

・言葉では理解しにくい場合，図や写真・イラストを見せた方がより理解が進む。

実践例　授業の内容がわかる板書の工夫

基本的な板書例



学習のめあてを必ず記入する。

箇条書き・キーワード・キーセンテンスでまとめる。

日付や１日の目標等を記入する。

図やイラスト，写真などを用いると，効果的な場合もある。

学習課題に正対した言葉でまとめることが大切である。

板書の実際

＜第２学年算数科「1位数×1位数」＞
絵やフラッシュカードを使い，学習内容の確実な定着を目指し，板書を工夫している。

＜第５学年国語科「大造じいさんとがん」＞
子どもの思考の過程に沿った板書であるため，１時間の授業を振り返ることができている。

＜第５学年総合的な学習の時間「復元の秘密」＞
グループや個人が，課題に対する考えをワークシートや付せんに書き，その考えを分類したり，整理したりしている。

板書で授業の流れを提示する例

１時間の学習の進め方や時間の目途を板書することで，子どもたちは見通しをもって学習を進めることができます。

＜書写の学習の進め方＞
1　今日書く文字の確認（5分）
2　先生からの説明（5分）
3　練習5枚（15分）
4　1枚を先生に見せる（〇分までに）
5　清書（10分）
6　後片付け（10分）

ポイント9　学ぶ意欲を高め，考えをより確かにするノート指導

1　基本的なノートづくりの約束が決められていますか？
2　子どものやる気を引き出すような，ノート点検や評価が行われていますか？

子どもの学ぶ意欲を高めるには，自分の考えや調べたことなど，これまでの学習の経過がわかるよう，ノート指導を工夫することが大切です。

よいノートであれば，復習や予習にも効果的ですし，友だちの意見や考え方を記録することにより，自分の考えをさらに広げたり，深めたりすることもできるでしょう。

そのためには，ノートの書き方についての約束事を確認し，子どものやる気を引き出すようなノート点検や評価の工夫が大切となります。

視点1

○ノートに記入する基本的な項目

①日付・教科書のページ
- 学習の記録として，日付を書く。

②学習課題（学習のめあて）
- その時間の目標，学習課題を書く。

③授業（板書）記録
- 書く位置や文字の大きさに注意する。
- 教師が説明や指示をしているときは写さない。

④自分の考え・友だちの考え
- 自分の思考過程を残す。
- 友だちの考えや，集団で話し合って明らかになった考えも残す。

⑤まとめや感想
- 毎時間または単元毎に，わかったことや疑問に思ったことなどを書き，学習を振り返る。

視点2

○ノート点検や評価の工夫

①ノートの回収，教師の評価を定期的に行い，助言や励ましの言葉，感想などを添える。

②ノートの取り方の上手な例を，学級便りやコピーの提示によって紹介し，交流を図る。

ノート指導における配慮事項

1　板書された内容を，丁寧にノートへ写すことだけに集中し，授業内容を理解できないことがないように，教師はノートに書く時間を保障することが大切である。
2　ノートに書くことを集中させるため，書いている途中で，発問や指示をしない。
3　ノートづくりを効果的に進めるため，教師は板書の構成を工夫する。

実践例　学習を発展させるノート指導の実際

小学校４年生の社会科のノートの例

縦線を定規で引き，ここに日付やページを記入する。宿題などの連絡事項もメモする。

学習課題は，囲みや○印などで明示する。

６／３（水）
18～19ページ

今と昔の家庭生活を比べてみよう

家事		今		昔
せんたく	＝	電気せんたく機	→	せんたく板で洗う
そうじ	＝	電気そうじ機	→	ほうきではく
料理	＝	ガスコンロ 電気すいはん機 電子レンジ	→	かまどで火をもやして

○電化製品を使うようになって，生活はどのようにに変わったか。

・昔とちがって仕事が楽になった。
・電化製品を使うようになって，お金がたくさんかかるようになった。
・昔より「もの」を大事にしなくなった。

課題に対する自分や友だちの考えを書くことで，それぞれの違いを比べることができる。

宿題
ワーク
問５

感想　昔はせんたく機などなくて，手で洗っていたなんてすごい。そのぶん昔の人は今の人よりつかれていたと思いました。

よく気づきましたね。昔の人はたいへんだったろうね。

助言や励ましの言葉を添え，子どもの学ぶ意欲を高める。

助言や励ましの観点

○見やすさなどレイアウトの工夫について
○成長や進歩の状況について
○学習に取り組む態度や姿勢について
○発言や行動，考え方について　など

発達段階に応じたノート指導の留意点

低学年	中学年	高学年・中学生
・問題の場面や考えたことを，絵や図で表す。 ・自分の考えをマスに沿って，正しく丁寧に書く。	・学習内容を後から確認できるように友だちの考えや気付きをできるだけメモする。	・自分と異なる考えや，新たに気付いたことなどを書いたり，自主学習を行うために，意識的にノートに余白をとる。

低学年の場合は，何マスあけて書き始めるか，どこで行を変えるかの判断ができません。「めあて」や「まとめ」など，いつも同じ形式の部分は大きな紙に書いて常掲しておき，パターンに慣れさせましょう。

ポイント10　学習効果を高めるプリント教材等

1　教科書に対応したプリント教材やワークシートを作成していますか？
2　各教科のねらいに即した内容になっていますか？
3　学習効果を高めるため，子どもの実態や学習内容を考慮したものになっていますか？

主となる教材は教科書であり，プリント教材等は，その補助的なものです。子どもの実態と学習内容を踏まえ，授業を構想する中で，どのようなプリント教材等を活用することが効果的であるのかを十分吟味する必要があります。ねらいに即して効果的にプリント教材等を選択・活用することで，学習効果を高めることができます。

視点１

○ねらいに即したプリント教材

①知識・技能の定着
・漢字や計算の練習といったドリル的プリント教材を使って，学んだことの定着を図ることができる。

②思考の活性化
・学習問題を図示したプリント教材等で，子どもたちに考える手がかりを与えたり，考えをもたせたりすることができる。

③思考の整理
・表の中に段落ごとに読み取った内容を書いたり，説明のための補助的な言葉を入れたプリント教材等に取り組ませたりすることで，子どもは自分の考えを整理していくことができる。

④学びの振り返り
・理科，生活科等において，観察記録などを蓄積していくことで，子どもはこれまでの学習内容を振り返ることができる。

視点２

○作成上の留意点

①内容の精選・吟味
・子どもの実態と学習内容に合わせたプリント教材等を作成する。内容を盛り込みすぎることで，伝えたいこと，学ばせたいことが曖昧になる。
・以前から使ってきたプリント教材等を使用する場合，学習指導要領の内容や統計数値など，時代の変化に対応しているか注意する必要がある。

②内容構成の工夫
・学習効果を上げるには，知識の定着を目指す「穴埋めプリント」ばかりではなく，自分の考えを記入し，思考過程が明確になるよう内容を工夫する必要がある。

③自己評価欄の設定
・本時の授業を振り返ったり，学習したことを確認するため，簡単な自己評価欄や感想欄を設け，授業評価させる。また，机間指導で，達成状況を評価することにも活用が可能となる。

実践例　学習効果を高めるプリント教材の実際

知識・理解の定着を図る

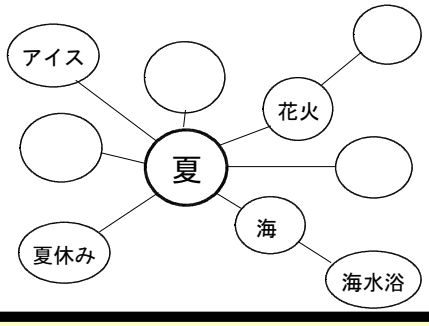
かけ算の計算練習

①　３２ × ３	②　２６ × ３	③　４８ × ４
④　１２３ × ２	⑤　２３４ × ３	⑥　１４５ × ４
⑦　３４５ × ３	⑧　４６７ × ５	⑨　３０５ × ８

漢字や計算技能等，学んだことを定着させるために用いる

・計算プリントでも，単に問題を並べるのではなく，種類別にするなどして，子どもの誤答の傾向をとらえる。
・時間を計るなど，目標をもたせて取り組ませる。
・習熟を図るだけでなく，子どものやってみようとする気持ちをかき立てたり，苦手なことを自覚させるほか，取り組んだ後に，頑張りを認め，ほめたり，励ましたりするなど，子どものやる気を持続させる。

思考を活性化させる



思考を促す場面で用いる

・この図のように，考えるきっかけとなるもの。
・考える手がかりとして，ヒントとなるものが示されているもの。
・考えをもたせるために選択肢が示されているもの。
・自由に書き込めることで，考えるきっかけをつかむことができるもの。

などがあり，子どもの考えを予想し，本時の目標の実現に向けて，活用していくことが大切です。

考えをまとめさせる

説明文の構成

⑤	④	③	②	①

考えを整理させる場面で用いる

・段落ごとに読み取った内容を表にまとめ，構造を知るためのもの。
・自分の考えを順序よく表現するために，「まず」「次に」といった補助的な言葉を入れたもの。
・登場人物の思いをイラストの吹き出しに入れて会話文として表現するもの。

などがあり，取り組んだ後に活用する場面を設定し，自分の考えをわかりやすく整理することの大切さに気付かせることが必要です。

学びを振り返らせる

あさがお　かんさつ　カード

８月　２７日（水）　てんき　はれ

あさがおの　はなが　さきました。
３つ　さきました。
もっと　たくさん　さくと　いいな。

学習を振り返る場面で用いる

・生活科，理科における観察記録。
・総合的な学習の時間における振り返りカード。

などがあり，単に学習の振り返りで終わるのではなく，子ども自身に学びの成長に気付かせることが大切です。また，自己評価カードの蓄積についても，同様の効果が期待できます。

●参考・引用文献一覧●

・「小学校学習指導要領」　文部科学省
・「小学校学習指導要領解説」　文部科学省
・「中学校学習指導要領」　文部科学省
・「中学校学習指導要領解説」　文部科学省
・「平成１５年度小学校教育課程改善の手引」　北海道教育委員会
・「平成１５年度中学校教育課程改善の手引」　北海道教育委員会
・「平成２１年度　学校教育の手引」　北海道教育委員会
・「学習指導の充実のために」　北海道教育庁上川教育局
・「釧研紀要　第６０集」　釧路教育研究所
・「平成２０年度函館市学習状況調査実施報告書」　函館市教育委員会
・「学校教育指導資料　子供一人一人に応じた指導のために」　函館市教育委員会
・「研究紀要第１７０号　確かな学力をはぐくむための授業改善に関する研究」
函館市南北海道教育センター
・「算数・考える力をのばす教材」　国土社　中村享史著

【平成２１年度函館市学校教育指導資料作成委員】

委員長	函館市立桔梗小学校	校長	戸澤和彦
副委員長	函館市立凌雲中学校	教頭	濱谷　操
委員	函館市立湯川小学校	教諭	新沼誠子
	函館市立神山小学校	教諭	小仲　剛
	函館市立東山小学校	教諭	梨木正人
	函館市立戸井西小学校	教諭	藤原友和
	函館市立港中学校	教諭	大村英生
	函館市立的場中学校	教諭	長谷川秀雄
	函館市立亀尾中学校	教諭	濱田妙子
	函館市立桔梗中学校	教諭	櫛田朝子

平成２１年度函館市学校教育指導資料
「わかる授業づくりに向けて」
～学習指導のポイント１０～

発行日　平成２２年３月３１日
発　行　函館市教育委員会
所在地　０４０－８６６６
　　函館市東雲町４番１３号
電　話　０１３８（２１）３５５７
ＦＡＸ　０１３８（２１）７９０１
E-mail　shidou@city.hakodate.hokkaido.jp